思いでの先生方 ⑱ 富田 俊夫 先生

夫・富田俊夫

富田清栄

今夏、高知新聞社から一冊の本が発行されました。「白球弾め！」

高知県中学野球選手権大会が50回を迎えたのを記念して一昨年、半年にわたって新聞紙上に連載されたものを纏めたもので、昭和25年の第1回大会から5連覇した土佐中野球部の偉業が載っていますが、主人の土佐校在職中の思い出は中学野球抜きには語れません。野球部スタート時のメンバー(28回生)が27年春、甲子園初出場を果たし、第1回大会を制したメンバー（29回生）が28年夏の甲子園で準優勝した事などを称えて頂き、土佐高野球部30周年記念式典で故野先生のご縁で土佐中に奉職しました。どんなきっかけで野球との関わりが出来たのかははっきりしませんが、故大嶋校長が野球に熱心だったので、野球部をスタートさせるに当たって、当時全盛だった赤バットの川上哲治さんの大ファンだった主人に白羽の矢がたったのかも知れません。今度同窓会長になられた池上さん（28回生）のお話では、昭和22年春に入部した時は主人が監督だったそうですので、中学野球部スタート時から監督をやったのだと思います。つごう9年間の監督在任中に好成績を残せたのは、選手の皆さんの頑張りはもとより、ご父兄の献身的なご支援のおかげと今でも感謝致しております。

感謝状

富田俊夫殿

曽我部校長から戴いた感謝状は今でも主人の書斎に大事に飾ってあります。

安芸郡川北村で生まれた主人は、旧制安芸中では陸上の選手でしたが大学時代、学徒出陣した軍隊時代を通じて野球の経験はありませんでした。陸軍少尉で終戦をむかえ、昭和21年に外地から復員し故西

結婚したのは昭和21年の暮れで、式の4日前に南海大震災があり、新婚旅行どころではありませんでした。父親同士が仕事上旧知の仲だった縁ですが、私も第一高女で陸上をやっていましたので、目に見えない接点はあったわけです。初めて会った時の主人は坊主頭で詰襟姿がとても凛々しく見えました。主人の方は、「健康そうでスポーツ好きだから君と結婚したよ」とだいぶ後になって言いました。主人は朝が早く学校には一番に行くのだと言って、城北町の自宅から毎日歩いて通いました。「チッチ」と言うニックネームを戴いていましたが、イニシアルのＴＴ説と、鳥のような早口説がありますが、命名した方がいらっしゃいましたら真説を教えて下さい。

学校では中学野球部監督の他に、国語教諭として古文、文法を教える一方でクラス担任もやりました。26回生と俳優の北村総一郎さんや甲子園準優勝メンバーが揃っていた29回Ｏホーム、そして工科大学長になられた岡村さん達の32回Ｋホームです。今年の5月に29回Ｏホームの半分以上の皆さんが、4年前に他界し小高坂山に眠る主人の墓参に全国から集まって下さったのには感激しました。その後の城西館でのクラス会で、みなさまと親しくお話した思い出は私の一生の宝です。

2人の娘は嫁いで小金井と滋賀県の大津に居り、孫が4人おります。主人が63歳の時、娘と医師研修中だった娘婿をニューヨークに訪ね、1ヶ月ほど滞在してカナダまで足を延ばしたのが良い思い出です。

主人は几帳面そのものの性格で、何でもきっちりしていなければ気がすまず、又時間にもうるさく5分前に揃っていなければ機嫌斜めでした。野球の監督としても、元陸軍少尉らしく精神面を強調した指導でいつも張り詰めていた様です。家でも同様で、非を率直に認めず言い訳をすると怒りました。威厳のある主人であり父親であったと思います。しかし時々は外での反動

で甘えん坊の一面を見せる事もありました。家ではほとんどお酒を飲む事は無く、外でもビールを少々程度でした。おすしが大好物でとりわけトロのにぎりには目がありませんでした。晩年のある日、おすしをたべながら、「今度生まれてきても、君と結婚するよ」と言うものですから「やさしくしてくれないといやよ」と言うと静かに微笑みました。

昭和25年8月。県中学野球第1回選手権大会優勝を記念して開かれた10日間の地蔵寺（現土佐町）合宿。前3列が土佐（29回生、30回生）、中央が大嶋校長、右に1人おいて富田先生、山本先生、左に1人おいて池上武雄現同窓会長。